



月
春
歌
上
下



Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a poem or prose. The text is written in a fluid, connected script across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a poem or prose. The text is written in a fluid, connected script across approximately 12 lines.

古今集巻続

きれわるとりたことをあもとりかぐと

うりきはあにみの乃もみぢら紫

此書ハ古今集れあとも海しとくは是乃俗流サトヒコト小譯ウラせ

ぶらへともしく此集ハよ小物よくあまり人なれはさくとも
の何もしもてのこまのゆも何しむねも今まはしむるまに
うねとびとくふふれは種といふまぢらあまをいしむかあさ
きふ乃柄ともれありとがりはほのうふるあきどそのよとよ何や
けんもこうぬをそのふちうね里人のあきれつる本れこよるとはよ
くえさきふさしてかきいしむむう何のよとよれ本と

てハ狩ゆらゆらえ何し祓むもるは今おのがらふあがごと
さしてさうぐい泥相ちるをたさびらな澤ツツ——さうぶがみづら
さあふむが——くて。物の味をいづら——あえてさあさうがさく
いゆ——乃雅言ミヤゴトをねおのがさ——た因のおさ——なまがら——い
まらねふむへのこよねら——あふさ——は——あまきか
○俗サレヒコトさかのぶこの里さ——あ——あやまが中にきみやび
ふらうさもらばあまのさしあまらばあさ——あまの
にちさ——がさあがはさふさうあひが——大さるさ
アの泡——さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
とあて。なう——いさうが——

○俗サレヒコトさもさまぐれあさゆふのさうりや——い。又ありま
又あ——のいよえき——をねら——あ——又うは——くもさうけ
いさうらさ——さ——あさひあささうさうさうさうさうさう
ふながあさ——あささうのらささう河——澤ツツさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
よくけいささうさう——又男さうさうさうの河さうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

のういよれつと雅と信とをいふは、
一、
○枕詞等、
れを譯し、
○此の書は、
○此の書は、
○此の書は、
○此の書は、
○此の書は、
○此の書は、

のういよれつと雅と信とをいふは、
一、
○枕詞等、
れを譯し、
○此の書は、
○此の書は、
○此の書は、
○此の書は、
○此の書は、
○此の書は、

イマデ皆メシクニソシクノ哥ヲヨムチヤワイノ

ちかづをとしのこはくしをけつらぬうごかきんふんぬあふ
神をもけを禮し思つせをこ女乃ありをこやうきぎもけ
きものぬれををををぬぐさむるいこなり

○チカラモ入ズニ天地ヲウゴカシタリ 目ニ凡エヌ鬼ヤ神ヲ感ジサシタリ
男ト女トノアヒダラムツマシウナルヤウニシタリ アラクマニイ武士ノ心ヲヤラ
ゲタリナドスルモノハ哥チヤ

このうこあをつらぬきをををぬぐさむるいこなり

○サテハ哥ト云モノハ 天地ノハジマツタ時カラデケタワイ

けりけうけにのまをてめ神を神とぬりけりことといふま

○ソハカノ伊弉諾伊弉冉ノ事ガ 天ノ浮橋ノ下デハ夫婦ノ神ニオナ
リナサレタコヲオヨミナサレタ哥ノチヤ

ふら何色ごとしサリけりあといふさうこはあめふしハ
あこてぬひめふんぬり

○サウチヤケレヒ シツカリト哥ト云テ世中ニツタハツテキタノハ ひまの 天
テハ下照姫ト云神カラハジマリ

あこてむえといあめふみこめぬりせうこの神のかこち
をりさふうりてかやくをよまふえびまをこぬり
こぬいこぬりせうこぬりせうこぬりせうこぬり

○下照姫ト云神ハ天若彦ト云神ノ内ニヤウテアツタツコト云ハ

そのひなをばむしひにさしうしあやうぎものみくぶをなまねむしあ
○ワクハイト云ツハフアカノ仁徳天皇ヲオヨソハシタチ
なふもつ小暖やこの花をぶもりいまはまきべとちくやうはなを
○雞波津ニサクコノ花ガ 三 サアモウハ春サキチヤトミテコノ花ガ
うらつなまきべし

○ト云ヤウナガサウデアラウ
ぬしひおきかをへらう

暖むおおもひつくとおはあぢきぬさうおひつしきのひもきききて
○暖テアル花ニウツナリト居入テ居ル者ノサテモイラザルコワイ身ニ
心勞ナコトノデケテクルモシラスニサ

とひなをばむし

こきハ〜とふひてお〜あ〜き〜さ〜あ〜のさり
は〜の〜ふ〜に〜う〜ひ〜ひ〜の〜は〜さ〜〜う〜ふ〜め
あ〜あ〜〜の〜お〜さ〜〜さ〜〜い〜い〜あ〜あ〜き〜

○はがへあト云ハ〜の〜チタムコトニシテ 物ヲトナドモセヌモノヤソレニ
は暖をニト云チカツへちニ出シタハドウ云心ヤヤラガテガイカヌ 五番
ノ多コトウタト云取(出シタチガサ けがらうニハ叶ウデアラウ

み門あをなを〜し〜
あ〜い〜の〜さ〜の〜し〜れ〜あ〜の〜お〜き〜て〜い〜ま〜は〜ま〜き〜ど〜に〜き〜え〜や〜さ〜〜ひ
○オマヘガ弁別ニ 二 起テイナツタナラフハ今カラ ちとウタラタビ

しんくぬぐー

あまのきとほえてゆわつぐしほきふひきふらんぞんじある

○けいへとらトスハ代ラホメテモウラ神へ申スガヤ ソレ此殿ハト
云ラドウモイハとらトハサスエヌテイキヤ

まぢゆふとぬつとほく美代をさす終ハ津とまじり
こまじりやきこーかまじりむあやよそむんこふりかきせ
しんくぬぐーゆきあふかまじり

○コレチドらガイハとらト云ハスコトウデモアウカマア多イテイラウチナ
六イロニ分レウハドウモサウハウケラヌコトゴザル
今此よのちうらむつきんふらん花ふぬりふらんさしあてぬく舞

そらぬきあてのそらでくまば

○サテ今ク世中ハ人心が花ぐにイコニツイテ ウキニツタカラシテ アダ
ナキツトセヌあバガカリデケルニヨツテ

しんこのそらぬきあてのそらでくまば
あやそらぬきあてのそらでくまば

○大切ナガガ 色ヲシノ家ノ 花 ナイニヨウゴトニツツテカイトコロハ
花 アラヒシテガサシヌヤウニチテシマウタ

このそらぬきあてのそらでくまば

○ホニタイトコロヲ見レバカラアラウコトテハサナイ
いふくはみまがまの花のけいそ秋乃月の花てふきか

ふんくは免しとてあふつけつらばなめてまうしめ給ふ

○昔は代々天子御が春花時分や秋月夜下云時ニハイツテモツメテ

居サヤル衆ヲ前メシテナヅレカビテツケテハあう上ヤウニ作付ラレタ

ゆゑ花をこよつてよりあきとてあまざひあは八月をあまざひ

あまざひふとどねるをばえ給ひてさしあうと志し給へる

○サシテ或は花ヲ見多ク名ラテヨリツキモイ取テマデテ後子マツテアルナリ

或月ニ執心シテ見ニ行テハマダ又サキヤ入テシラウタアトヤナド闇イノニ

案内モシラヌ取ラアチラコチストシテアルイナリスルヤウナ風流志ニラソヨシ

が哥デ考ヘテは後ナサシテソウヨツテアルハカシヨイ者チヤアルハオロカ

ナ者チヤト云フハ内存知ナサシタモヤウチヤ昔ハサ

花をこよつてよりあふつけつらばなめてまうしめ給ふ

あまざひふとどねるをばえ給ひてさしあうと志し給へる

あまざひふとどねるをばえ給ひてさしあうと志し給へる

あまざひふとどねるをばえ給ひてさしあうと志し給へる

あまざひふとどねるをばえ給ひてさしあうと志し給へる

あまざひふとどねるをばえ給ひてさしあうと志し給へる

あまざひふとどねるをばえ給ひてさしあうと志し給へる

○サテ又サガガリテナシサ石ニタネリ筑波山ツケナリテ君ヲ祈リヤシ

ト修しびカクシキ流ののみふあり

○又公身過夕ヨロビアル時ヤ心ニアルホドオモシロイアル時ヤナド

かきししとくきつなり

○アルハ昨日テハ繁昌ニテ何ノ思ヒゴトモナカツタ者ガニハカニ不仕合せニ
ナツテナギラシタリ 又モトシタシカツタ中ガソエニナツタリシタトキ

阿ノハ松山の浪をかき中ノ水ヲタトニシタリ 萩ノ下流をあらん
あつきれ志ぎ乃もひらけをうご

○或ハ又末ノ松山ノ浪ヤ野中ノ清水ヲタトニシタリ 萩ノ下流ヲナガ
メタリ 喉ノ羽根ガキスル救ヲカズヘタリ

阿ノハ松山の浪をかき中ノ水ヲタトニシタリ 萩ノ下流をあらん
あつきれ志ぎ乃もひらけをうご

○或ハ竹身ノウイヨウ入ニナシ 吾我川ヲタトニ引テ世中ヲ恨シタリ

きつふしつゝ酒次の文とらひくねをぞいぐ

今ハぬじねもりかりあびちるもねがの橋と造りぬき
く人もおにのそごんをたぐさめをる

○又今テハモウ富士山モ煙ノタ、ヌヤウニナリ 長柄ノ橋モ又新シウ出来
タトシテ人ナドハ別ニテオヨムハツカリテサ心ヲハラシターチヤウイ

はらふを盡しとるる流ハむがしじも 盡るれをほきぬ
ちりとこそとへはるねりといひびこ雅々のうねを定まぬ橋

阿ノハ松山の浪をかき中ノ水ヲタトニシタリ 萩ノ下流をあらん
あつきれ志ぎ乃もひらけをうご

○ズツ昔カラ右をり信ハツテキタチニモ奈良の時代カラ別ニテヒロツタワ

イ 其内時代ニ定テ哥ノワテラヨウは存知テアツタモノデカチアラウ
かのおろし時イおろきみ川乃々ゆる泥のもやれ人オろな
んまれむじつとなりま

○その世ニ正三位柿本ノ入磨ハ哥ノ聖人デサアツタワイ
あまハ悉くル人と身をほそせたりしりねづべし

○コレハコトニ君臣合躰ト云モノデアラウ

秋乃ゆをま田川イーねづもみぢをばみうどの清目ル錦と
えほひ春れあ〜とるやふ乃はく〜ハ人オろが〜ら〜ハ
せう〜の〜なんおろえとる

○秋ユフグレニ立田川ニ流レれ来ラバツ奈良ノ帝ノ清目ニ錦ヤウ言後ナサレ

春ノ新き中山ノ橋ラバ入磨ノ心ニ雲カトヅカリサオハレタワイ

又山のべりあろ人〜り人有ら〜らふあや〜〜あまりま

○又山人ノ赤ト云人がアツタワイコレモ哥ニ妙チ名人デアツタワイ

人オろまろ人ガみふ〜む〜か〜く〜ら〜む〜ハ人オろが
ま〜ら〜む〜む〜か〜く〜ら〜む〜

○人マロハ赤人ノ上ニタツ〜ハナリニクカラウニ 赤人ハ人マロ下ヘオキニクイ

クラ井ナコトデサアツタワイ

な〜らみ〜む〜乃は〜

あつ〜川おろみ〜れ〜は〜ら〜り〜こ〜〜ハ清まらやもえら
人オろ

梅葉をこころしんじきとてあはれき家老のまどくふも
ほのぐとあつみの浦乃船老かふ時がらまゆく船をぞとよ
赤人

まればゆふさきこもつこやこ一酔ぞやばなつこよ極ふきば

○春ノ野へスミシラウマウトロウテオシ来タガアマリドカテ面白サニ
此野デサ一夜寐タワイノ

コウ此浦ふぢみちるまがこをねとるまをばつこていづるま

○若ノ浦へシホガニクバ干海ガ喜サニ 芦系ノ方ヲ指テ鶴ガ鳴テワタルア
此人ノ海おきて又まぐもく人にもくも作れようふきこか
このよろしくふゆえまどくもをる

○此二人ノ外ニモ又スグレタ人ハ **物**の代々 **糸**の時々エサアツタワイ

ちきとらとちきとれををわつたてちむあえうまうとな
づき〜〜〜

○サテは奈良の時代マデノ哥トモヲ集メテあ葉集トササ号ヲラマシタワイ
こふのやへのあををまれをもまき人づふむりあり
ちりれたらちきとれをまきとらえぬとらあむひなんけ
かの時よりこのまきとせしむらとせむらつぎにちむ形りふる

○其出時代カラコト年ハ百年アマリ出代ハ十代ニサナルワイ

こふのやへ乃ゆをまきとれをもまき人よむ人あやう
まじづうふひをぬらとらまはちうけとれえとらえぬ

トツテニホヒヲサツテアルヤウナ

月やあゝぬきやいづはまねぬまづこぞのこもつれがよ
大うこ月をもてしこれであのほりまば人乃おいと那家もの
祢ぬをねれまをともねはらるるをさうねあもねのまね
ぬんをれやまむでいおとづもろこ少てそのさかみふおまご
もあき入乃よきぬきこらんがま

○文室、康秀ハ何ハ多クミテ、まノ躰ガフノ何ト相違セヌイハ、アキンド
エキル物ヲ著タヤウナモノチヤ

吹くふやべの葉本れをさるれがうぶ山風をうらとらむ
涼葉れみうどの清あ忘よ

草涼きかきこみおふ新きこしと目よふまふおやいあ
宇治山乃傍きせんちあはばうまふこまをいあをりあ
なれいも秋の月ばるふらうまきのをふあふがご

○宇治山乃傍撰ハ、何ガオウカウチソツテ始トハ、トウリアヒガシツカリ
トセヌイハ、秋月ヲ見ルニ、曉ノ雲ノテ、キタヤウナモノチヤ

こころをいよこのまのまをまむせびうちがう人さうま
よあふうこおやくはし、秘をかきこををかようこしよくま

○け入ハヨシダ哥ガ多ウハ、何ハラヌニヨツテ、アレヤコレヤ、足合ヌトガナラ
子ハトクトハシレヌ

をのこまらひあしめそしやりひえの流ちりられあやう

ナドノゴトクニタヒトアルケドモ 皆自分ニ哥ヲヤト思ウテ居ルハカリテ
實ニ哥ト云モクハ、シイヤウスヲバ知ラヌモノチヤト云エル

かく語りし方とて、然乃所先姑くして、あつしりひとよ
のときこそ、はつりふおむまりぬる

○サテ右ノ每リテアツタトコロニ 伊當代上^上極ノ天下ヲ治メサセラレノ
モ今年デ九年ニナルガ

ある海までおらんうらうらゝの浪やゝぬのちうまでなぞれむらぬ
おらん先づもれう事^事はくそ^まはら^まおもやよりもさぶくおへはして

○ドコカラトコニテモモシタ取ノナイハ慈悲ガ日本ノ外ニテイキワツテイツク
ノウラマデモ^{オカケ}ニナソノ^ハ後ヲカウムラヌ者ハナイ難有イ時節^節デ

よはづのようりおと、はききゝゝとをひゝおもろくは
るはまてゝもかハぬあかりに

○イロくノ内政事ヲトリ行ハセラル、内ヒテニ其外ノ^{イナ}一切ノ事ニテラ
ハステアツバサレヌアメリニ

い中ノ事^事は、おれどありふゝもをもおゝゝは
とて今とをそお、後ノ学^学もはくゝつとて

○古アツタ事ヲモ忘^忘アソバサル、イ年久シウタタ事ヲモ取^取テアツ
ハサウト云^云思^思名^名テ 今モ伊^伊説^説拾^拾バサレ又後^後へモ傳^傳ハレト思^思名^名テ

延喜五年に月十八日大内記きのこととあり伊書はと、はのあ
づらとまのほくゆきはきこのうひ乃さうとらんあやゝかちのみ

なれき清ふ利ひるゆるきばは序ねふりよぶふりて
か門を人乃みふおそろしうつをうけんりもちむとど

○世間久ノ聞トコロモナトアラウカト呂ハ又一ツハチノ心モ恥カシキトモ
もあびくもあはくもあわく麻乃おきぬハはくゆきくこの
そふおちくくううれてはるはあわつてはるをよろびぬ

○拙者トモガハ世間ニヤウニ生ニアセテカヤウナ作付ラレノアル時長ニ
タコトヲサ くまひくタツテモ居テモ たかく寐テモサテモ候ビニス
ふしやあ形くならふくさどあはるくそよぬくう那

○カノ人麻呂ハトウツテウタテニウタヒ哥ノ道ハノコツテアルサテク難有イナ
もくひとさうりくさるもあむうねくひゆきうよとと

○コレカラ後タトヒ時代が長クカハツテドヤウニナリタト云テモ

このいれも 若あををや あをあをぎの糸あえむねの世乃ちりう
せどくしてまさたのうづもくつとらもあはれくくさまれば

○此集カ若世間ニ まゆの おのタエウセズ まきの 未長ウ あの 久シウ傳
ハツテヤヘアタエバ あを をやの四字ハ次のあをやぎよあまが
も 得あ べ もハ 若あ え く と あ ね ぶ り か ね ん
あはれきあををとりありあこのうけをえくむ人を

○未代ニ至テ哥ノヤウスタモヨク知り物モ心得テアラウハ
大さくは月波えるがあしくにいあへをけりまて今をま
ひざり免うと

○此集ヲ いみじきを サテク結構ナ集ヤト云テ 天十月ヲスルゴトクニ作ギタツト
 ニテ今此出當代ヲシタハヌト云フハアルヤイワサテ
千秋云いみじくとハ後世ナリウチニ
 まゝならんは延喜の時代とせり

古今和歌集卷第一 巻一 巻一

春歌上

ぬととふまゝくらきる日とあはる
 左の原元方

年経うちふまゝ来にらるととせむいそぎやいそぎにせむいそむ
 ○年内ニ春ガキタワイ コレノ同ニ年内ノ内ヲ去年「云々モノデアラ
 ウカ ヤウハリコトニト云々モノデアラウカ

まらあちまの日はあはる 紀貫之

神ひぢつてむむびしあはるまゝの春とらふ乃風やどくらむ
 ○袖ヲヌラニテスウ多水ノコホシニケルヲ春ノキタ今月風ガフイテトカス

此方古くゆづゆきバ三の句をりりきうぬづいをりりれをみや
れまこけ極方紫ふまう。ゆを此集のしらふいあてはるきうら
ふ白々耳ねきぬあふは色むとさうのまつうもこの後の人のかきハ
の送くらゆてさかいらふ送先とさゆもあべい。花きごとらきバふ
てハ結のらむとかきぢひあう。されば結を一本ふつあうらうとけ
も。後うかきあひを思ひて。改めらう。ふやあうん。

何人のいささけのおあきおあひさうちきこはうん

二條后れとうふのみやまむねとまきこえりら時^{ヤシタ}月三日

^{康秀ヲ}おまうへ小巻してあやせでけうあひごふ日ハてりねがう。雪
^{康秀ガ}のかしらにありかてるをよめるをけひらう。
^{オヨメセアツバサレタ}

ぬん^ほやのやまひで

まは日乃むりふあててまきまどがしらねあてねごまびり

○此節ノ春日ノ先ノヤウチ難有イハ惠ヲ蒙リマスル私テゴザリマス。年ヨリ

マニテカヤウニ頭^{ズリ}が雪ニナリマスハサ難多ニ存ジマスルコマリマシタ物テゴザリマス

若れよりきまはらう。まこのはらうゆき

・辰^あらこのをもるあ乃ちあまは花ねき里ととねごとちうしけあ

○辰ガタツテ木トモノコノモ張^あ出ル春ノヨロハヤウニ雪ガフバ花ノチイ里

ニモサ 花が千ルワイ トニ下花トスエル

まのちあああ。ぬらうらああ。ねや

まやとん茶やおまきこきこまうむうひまごあもねうごも有うな

○ハヤ春ニツクイナバモウ花ガサキサウチ物チヤニマダサカヌハ春ノ味タガホトヨ
リ早イノカ花ノサクガホドヨリオソイカ音ナリ片鳴タラソレドキラチヤ
トニコトガシウニサテモア音サハナカヌカナ

まのそとめおとこ みふねもぐさね

まきぬし人きいどしうひき乃なぐぬいづりハあじとど思ふ

○春ガキト人ハケレ片マダ音ガナカヌナニモ音チカヌウチハイツマデモ
オレハ春デハアルマイトサ思ウ

定東時きまのこはる合のち 源まきまこ

音風ふとくゆけむあふくちうひふはやまねをりそな

○春ノ初ニ谷風ニアソニコトケ氷ヒマカラウチス浪ハテウド花ヤウニ見

エルガコレガ春ノハツ花ト云モノデアラウカ

まのまこしん

花乃魚を風れゆりふあぐくどきさそまろくべりハヤ花

○風ノ吹テイク幸便ニ花香ヲ下ツケテヤツテサンラ音ヲサンヒダニテクル葉内者
ニハスルヂヤ

大江子里

音れあふりゆりそなあくはまろくあふねれりあま

○谷カラ音テ出テクル音ノ声ガナクバまきタトマラタレガシラウツ

左系棟梁

まろくが花もゆりあふり黒ハものうかまろく音ぞたうく

○春ニウテモ花モイ山中ノ里デハナニモリアカナニ鳴トモチサウチ声ヲニ

テサツガナク。子秋云。下白。あうかきまわで。そのなくとよまことして。どやいものうらる。移へくまるとふをい。此れおやし。

歌ふべし しみ人ーらむど

中べらうくあわーをきばうぐひそのおくある。あはれあくきく

○ワニ野へ近イホニスマラテ井バ。きかヨウマテ。毎日アサカラキマス

まじりやハルふまなやきとあまのつらもこもれ。こもれとあしれを

○は春日野ラバ今日焼テクレトヨ三。妻モ来テアツテ居ル。モキテ遊テ居ル。ホドニ

かきかやのどぶ火のせきあしてんよいあくう。わりて。こくまは。とてむ

○はま日やノ飛火セノ番人ヨ。出テヤウスラ。テクレイソチハ。此中ニ住テ居ル。バ

タイカイ知レテアラウガ。マウクカガリアツテカラ。若菜ラツニハ。おウツ

みんりハ。ね乃。雷だ。よきえねくふ。まや。こを。お。べ。乃。わ。う。ね。つ。と。ま。り

○山ニハアレ。吾サヘ。マダキエ。ニアツテ。松ナドモ。自ウ。ス。エ。ル。ニ。京ハ。ヤ。ツ。キ。リ。ト。春

メイテ 野へ人ガテ、若菜ラツムワイ

何づきらあし。てま。ぬり。ぬ。ぬ。日。さ。く。あ。く。く。バ。こ。く。ね。ほ。み。て。む

○一 オレナメテ。ドモカモ。ま。あ。ガ。マ。ツ。今。日。ハ。フ。ツ。タ。ガ。ア。ス。一。日。フ。ツ。タ。マ。バ。オ

ホカ多若菜ガツル。クラキニテ。ア。ラ。ウ。ホ。ド。ニ。中へ。出。テ。若。菜。ラ。ツ。マ。ウ。ツ

仁知のみくせ。みこふ。ま。く。く。ら。ぬ。り。人。ふ。こ。り

ね。ね。ひ。く。ゆ。ら

美。ぐ。く。あ。ま。れ。ゆ。ふ。物。て。わ。う。ま。は。き。て。こ。が。こ。あ。も。で。ふ。お。は。ぬ。り。つ。く

○ワコモトへ。進セウ。ト。存。ジ。テ。野へ。出。テ。は。若。菜。ラ。ツ。タ。ガ。村。ノ。外。寒。イ。テ

袖へ。ち。が。フリ。カ。ツ。テ。サ。テ。く。ナ。ン。ギ。ヲ。放。テ。ツ。ダ。若。菜。テ。ゴ。ザ。ル

まきれしあやせらと一のよみくもさるる

ほくゆい

まきれしあやせらと一のよみくもさるる

○口あやせサくま日サノ若菜ラツニヤヤラアユ白妙ノ袖ラフツテツダテ人がイタワ

オサあやせありまの流いづた延ぶともえけふのええとハ假字ま異ねた也

歌あつた

左原のよれに

まきれしあやせらと一のよみくもさるる

○春ノ着ル長ノ衣ハ横ノ糸ガウスサニ 山風ニサニダレテアラウサウニスル

宮中あやせのまきれしあやせらと一のよみくもさるる

まきれしあやせらと一のよみくもさるる

○イツモカラ又松ノ青イ色モ 春ガキタバヒトマ入ヒト染タヤウニ色ガマシタワイ

あつた

つゆい

まきれしあやせらと一のよみくもさるる

○一衣あやせまぬフルタビニ北ヘシあやせまイ色ガサダシクあやせスワイ

まきれしあやせらと一のよみくもさるる

まきれしあやせらと一のよみくもさるる

○糸ヲヨツテハホコロビモヌあやせフーあやせヂヤニ 春イ柳ノ糸ヲヨリカケル春ノコロハ

ケツクサ花ガ咲ミダレテホコロビルワイ ほとろぶハ花乃ゆくとり

あつた

傳正遍昭

あさみどり糸よるかまてあさあを玉やもぬ言ふを乃やちぎの

○アレアノ柳ヲ見レバ ウスモキ色ノ糸ヲヨツテカケテ キレナ白イ糸ヲア

玉ニシテツナイデサテモくえりナ春ノ柳カナ 餌材ヨリ

鳥〜〜りぞ よ〜〜人〜〜りぞ

むくもるさ〜つ〜さちもねむいほ〜〜まねどもあぞゆりゆく

○昔ヤニヤカヤもオモシロウサへツル春ハ物ゴトニエモカ改マツテアタラシウ

ナルをレバオガは身バカリハサオククニダクトフルウナツテイク

をららちのあけきもあ〜ぬ心申おやつりぬとよぶこそりりぬ

○アチモコチモ業内モシラ又山中ニチヤカ呼子鳥ガナイテ人ヲヨブガトコチヤ

ヤラサテく〜ア〜ツカリト〜ヌ〜カナ

あけ〜あをき〜てあ〜まかりき〜をひ〜てあ〜

元内解恒

あ〜もばる〜りぬりか〜とねみちらゆきぬりにあ〜やつ〜ゆ〜

○まニナツタレバア〜雁ガカルワ 居ハアヤウニソララトテ 北風ノ方ヘテギヤガ

コハヨイトコロテ ユキアフタ コトツケラシテヤラウカヨ

か〜る〜居を〜め〜 仔細

あ〜庭の門を〜と〜ゆく居を花あき〜黒にまみや〜人〜

○オツケ花カサクチヤニア ヒヤウニ夫ノ庭ノタツタラニスステイヌルアノ居ハ

花ト云モノ、昔カラナイ里ニスニナレタ〜カイ ンデ花面白イヲシラヌテカ

ナアラウ 餘花をきりての尻より。

歌よみ 夕暮のうらみ

をりつと神をふりてはれむけりてやうふらぐひものぬく

○梅ノ枝ヲ折タニヨツテソレテ袖ガニホフテコソアレコニ梅ノ花ハアリモセヌニ

ハ袖ノニホフヲ 梅花ガコニアルト思フカレテキガ来テ鳴ク 打はさるし

包よりのもあそとけとれとおもわぬさくら神ぬきやうの梅を

○梅ノ花ハ色モヨイガ 色ヨリ香ガサナホヨイワイアハレヨイニホヒヤハヤウ

ニヨイニホヒスルハ 文ガ袖ヲ乙タ此をノ梅花ゾイマア

屋じらかく梅乃をうきじつぢきれくまのあふあやまきんれりも

○ムヤチキヤニを近イ野ニ梅ハウエマヅ 花ガサケバアヨリヨウ白ウデ 待ツ人

ハ来モセヌニソノ人ノ袖ノニホヒトリチガヘルワイ ○千秋云梅うきと花のうらみ
きろくくんとはべし。

梅花をもちよるむらりきりて人のどかむるよひりぞちこち家

○梅ノ花ノ下ヘチヨツト立ヨツタト云ホドノアガアタガソレカラ 人ノフニラウツ

ヤウニヤ 衣ガ香ニソマツタワイ キツク白ヒナモノヤ

うめ花をもちよるむらりきりて人のどかむるよひりぞちこち家

嘗てはきりぬきしう先のきをりてかぎしをかくぬやや

○ソウタイ笠ハツムリヤカホラカクス物ナハ 嘗ガ笠ニヌウト云梅ノ花ヲツテ

吾ガ年ヨツタ形ガカクニカドウチヤト ツムリヘサヒテヌヤウ

歌よみ 素性は作

ようそふのこつととそえりう先乃花あうぬをまはそりてけりる

○春ノ夜ノ宵ト云モノハワケタメ又物チヤナセト云ニ梅ノ花ガ暗ウテ色コソ見テ子香ガカクレルカ香ナボクテモ限ハセヌ色ハ限ヒテ香ハカクレ子ハ限

レレデモナ限レヌデモナレドチラワケタメ又闇チヤハサテ
ニハカタ長谷ヘ一ニキルタビニ トミツタイヘ、スレウ中絶シテトテラ
 一ウチチヤウツツトニ屋トクキ人のおふち〜ヤド
 ズニキテソノ、チマタスレブリデソノイイ名イイ多ボソイアテニエカラスニハヤドハコレコ
 らでほごへ〜後ふり〜まじりれ〜おのつ〜し〜かくさ
 十ホリニサニカタク〜テアヒカラス〜シカリトアルヤト口上テヤニテタニニテゴボソコニサイ
 ぬク不形むや〜りハあ〜し〜ひ〜出〜て〜ゆ〜り〜れ〜い〜ま〜い
 テアル
 一と〜る〜き〜る〜梅〜む〜を〜ア〜て〜あ〜る〜 け〜ゆ〜き

人まゝいさゝくもあつてははとハ花ぞむう〜おあやほひけ
 ○人バドウチヤヤラ 心モカハラヌカカハツタカシラヌガ ナジラ取ハ 梅ノ花ガサ ワシガ
 来タバ コレハヤウニニハカタトホリ白ヒニアヒカハラスニホウワイ

あけをとりは梅茶乃ききりきり心と知る

停勢

まぶしく小窓〜門を花やらてを〜まぬらふ神やぬき形を
 ○流レテイク川へ花ノ新ノウツタラ アノ水中ニモ花ガアルト見テハイソ
 春テモタニサテ折ラモセヌニヲラウトニハソノ水テ袖ガヌルガ今年モ又ヌ
 ルデカナアラウ 洞虫ふあ〜と〜け〜ハ京極院の庭乃代あまを
 一あふぬぐ〜門〜と〜あ〜ハその代り〜つ〜き〜さ〜やア〜を〜い〜よ〜る
 一〜上〜方〜ニ〜三〜一〜と〜句〜を〜次〜す〜し〜ら〜れ〜だ〜し。
 年をと〜て〜花乃が〜こ〜とな〜る〜あ〜は〜ち〜と〜か〜は〜と〜や〜り〜と〜い〜か〜む
 ○年ヲミ子テ 毎年春ハ花ノ新ガウツテ 花ノ流ニル水ハ花チリ

カルトラ 澁がクモルト云テアラウカ 花ノチリカルト云ト 年ヘテ澁へ塵ガ
カハルト云ト 澁ガ同シテチヤヨツチカウヨシダノチヤゾエ ○子林云どしをへてし
リ河上の上のゆみきりて
用なきをくも澁の年をへてくものいふいんくふおりのいさしけきりて
俳澁終りしりびきさぬあむや

イハノをニ
あむりりさきき梅のさのちりりるをよき

更く

くくしりくく先うきぬれを梅のしり乃むとぬふうつらひぬむ

○日ガクルト云テハえ 夜ガアケルト云テハえイシテ ニハニモ目モナサズニ見テ居ルニ
此梅ノ花ハ イツノヒニ ヒヤウニチツテニウタコヤラ

お聞うつらひの澁ゆくふり

○み秋云は初句の二つのいハよとの
まかり興りハあむ
定雲は時きまのまらまらとよみ人まらまら

梅点を神ふるりてとめてしをまはとくともかこりし

○梅ノニホヒラ 袖ハツシテトメテオイタナラバ 春ハコテニウタト云テモソレ
ガ春ノ形見テアラウニ

素性は原

ちあしててけきものぬらぬれをうそふあひ乃神ふるむとぬ
○アチウタトバカリ見テソソブニデアラウコヤニ ヒヨチコヤ 白ヒガ袖ヘノ
コツタコビドウモあま梅ノ花ノコガワスレラヌ

野あむん

よきびくさくさ

ちりぬもあをふのこを梅乃花衣しき時のもひ知りせむ
○梅ノ花ヨチツタリセメテハ香ヲナリトモノコヒテオケソレラ後ニズシイト

もくノ思ヒダレサニセウ

人のあけりうきりあきし梅の花きぬぞくちりし

をらすてしうきり

ほくちり

あしーしうきりあきし梅の花きぬぞくちりし

○春ハサク物チヤトエテ外ノ梅ニナラテ今年カラ始メテ知テ咲クハガラ

花ヨドウツキルトエテバホカノ梅ニナラハヌカヨイゾヨ

野ーらび

よみ人あきり

山ノこ人もまききぬけりしをぬけりし梅の花きぬぞくちりし

○山ガ高サニコハ誰モ来テステ賞祝スル人モナイ此梅花ヨ人カニヤウ

クワセストテアマリウラウ思ウナイオレガハヤニテヤラウホドニ

又も里とやこ人もまききぬ山ぎら

山ぎらわがふふらふらとまきかきとまきふら尾りしをくらからいつ

○山ノ梅ヲオレガカウ見ニクバ震ガ一メニドコモカモ立テカクニテ花ヲ

又セヌワイサテモイデノワレイ履カナ

深敷后乃おまへりし花がきふ梅のむをけしせびん

ふとつてしうきり

あけちりおひやうちきり

年物色バよりひもかいぬきりあきし梅の花きぬぞくちりし

○年ノ梅ヲ経テシタレバワタシモイカウ年ハヨリマシガサリナガラアナクハ

昌ナサルハ内殿デカキニ花ヲ見マスバナニモ物思モゴザリマセヌ

たうきさのぶあしりくしんをてしうきり

左京業おのり

世の中ふらふらしてさくらさくらあけりせば春のあけはのどきかきま^り

○イツワ世中ニト下桜ト云物がナイナラバ ケツク春ノジブ心ハノドカニチ
ラウニ桜ト云物がアルデ イヤウニウクト心ガサウツイテオモドカニオモハヌ

歌一とらとど

よみ人あつじ

るも一隊もあはれなくとがねさくもむねおてもこむねぬ人乃とめ

○岩ノウラハシルは早イ門ガナケレバヨイニソシタラ内ニ居テ エ見ヌ人ノタタニ
アル川ノアチラナ 桜ノ枝ヲ折テキテニア ニヤゲニ持テイナウモノヲ
川ガアルデドウモヲリニイカレヌ

心乃さくらをもとよあゝ せんは解

るそこのもや人ふくくく 桜をみぢくふをりてあづこふさむ

○カウシテアルスナ十桜をウエテ 人ニタ^ハ咄スバカリテオカウ^カカイ
ソシテハエタカヒガナイホドニ キンデニ折テ来テ持テイニテ内ヘニヤゲニセウ
花ざかりふさばえやアとしとらる

るはさバ柳 さくくをくらませてみやこをまぢやまきかりら

○此山ノ上カラカウえ液セバ 柳ノ青イ色ト 桜花ノ白イ色トヲコキマセテ
ト下錦トスエルハエワタタトコロノ京ノケキガガ 春ノ錦ト云モノヤワイ
はくはあのもこめてどくはあぬらとけらまを記てよめあ

きあとのう

色とくも同じむくくさくらめどと平あ人ぞあつとめりま

○楊ハアヤウニ色モ香モイツノ年モ同シテ昔ノトホリニサクケレバ年
ヲ経タ人ハサコトホリニ若イ時トハ大キニカハツタワイ けあ三のうらぐ
ら知れどつひアハいさしうかまひがえ記やうけを楊をさるい
まむとてまひとあとの ふれんばくめいばまきさけれどもとらさ
くられくうをばうけひがさきまひ
をさるけくへんやる けくゆき

あまーかとしをんでをりつるまを履まうらむ山のさくを
○此楊ノアツタ山ハ 三品サダメテ履が立テカクニテ知ニクカラウニ らんタレガ
ニア ニタダヘテイテ折テキターゾ
あなれとあわせし終しおふまきくあてまつる
楊系咲ふさくしとけい おきの山のうひよりえゆるまら雲

○楊モモサイタサウナワイニア キツ アノ山ノアヒダカラ白イ雲ノ見エレハ

寛正 寛正の時ききいけいふ今昔の ぬのうら

みよーゆれふづーけきく楊花雪うしめぞけやまこれき侍

○吉野山ノアタリニ咲テアル楊花ヲ見レバ トントサ 雪ガヤナイカトトリ
チガヘラレルワイ

やよひーくくふ月けあきるとーまみら

いせ

はくふまきくく終る年どあも人のうらふ所くきやをもぬ
○楊花ヨ イツモノ年ハ早ウチル也 セテ春一月加ハツテ長イ今年ガカリナリ也
人ノ心ニタノウスルホドユルリト笑テあまがヨイニ ナセニイツモト同シウニ今年モ

サワノト心セワシキルコトヤラ

春はるふれはるちちをを花はなののぢぢんんアアててささくく花はなむむののちちらら

花はなむむののちちらら

夜よ京きやうよよううせせ

ままちち風かぜハハむむののああををよよききててああけけららららづづくくややううららふふととんんむむ

○ままちち風かぜハハ花はなノノ咲さテテアルアルアアタタリリババヨヨケケテテフフケケモモレレ風かぜハハフフカカイイデデモモ 花はなハハジジ

ブンブン心ココロカラカラヒヒトリトリデデニニモモチチルルモノモノカカトトタタメメシシテテススヤヤウウニニ

ささくくののちちららををよよめめ 元もと河か内うちみみつつ糸いと

ここぢぢののちちららををよよめめををちちくく花はなののちちららををよよめめととうう風かぜののちちららををよよめめ

○ササククララ花はなハハヒヒトトリリデデニニモモ ヒヒタタススララちちぢぢノノヤヤウウニニフフルルモノモノヲヲソソレレササヘヘアルアルニニダダ

けけ上じやうドドノノヤヤウウニニチチレレトトムムトトデデ風かぜハハフフククトトヤヤララ

初はつええふふののちちららををよよめめををちちくく花はなののちちららををよよめめ

ははららののちちらら

ひひららみみアアららわわくくおおががららーーちちくくををよよめめををちちくく花はなののちちららををよよめめ

○アアノノ橋はしノノアルアル形かたち行ゆテテスステテ折ひタタカカツツタタケケレレ 山やまかか高たかササニニエエノノボボラライイデデ

ゆゆ念ねんナナガガララオオレレハハヨヨソソニニススイイクク来きタタニニ 風かぜハハアアノノ橋はしヲヲ心こころニニカカセセニニススルルデデ

アアララウウトト思おもハハレレ 竹たけ材ざい山さんののちちららををよよめめ

影かげ一ひと本ぽん 大おほ友ともららははななぬぬ

ままちち風かぜハハむむののちちららををよよめめををちちくく花はなののちちららををよよめめ

○橋はしノノチチルルララ惜なげママヌヌ人ひとハハナナケケババ 此こゝヤヤウウニニははななままちちををよよめめノノフルフルハハ 世よるる人ひと

ノノ橋はしヲヲララシシニニテテ泣なククナナシシダダカカイイ

亭子院あ合はるこ けしゆき

様むらりぬ 風のたより 中をよぬき せふ浪をくらり

○楊ノチル時ニ風が吹タテ、其花がバラク中テサワグケシキハテウド

浪ノタツケシキヤソシテ海ニナゴリト云フガアル其ナゴリハ浪ガ多クヤガ

花ヲキラタ此風ノアトノナゴリハあツアリモセヌテニサ浪ガ多クワイ

たうしはみくぢのゆり

ゆりやうたりやうりのみやうあも色はうりしむむみくぢ

○フルイ昔の都ニツテニウタハ奈良ノ京ニモヤツハリ色ハ昔ニカラ

ズ都デアツタ時トホリニ花ハサイタワイ

まのうこしとよあま とうみぢむぢき

むの色ハ庭ふこむてしんをばどもあをぶぬとあまの山

○花ノ色ヲバ庭ノ中ニコメテオイテスセズセマテソノ香ヲナリトモ

ノ中カラヌミダシテキテコヘモニホハセイ 春ノアノ山ノ風ヨコヤ

宮内省のまはあの前 まは性は原

花のあもいやははけりこまをまをばうり色ふ人々ひきり

○花ノ咲ク木モモウ今カラハホツテキテウエニ 春ニハ花ガ咲テ

早ウウツロウ色ヲ足ナラウテ人ノ心モウツロヒヤスナルワイ

野あしは とうみ人ーらあ

まの色はつあひしぬ里あしむるちうぎるむのうん

○春ノ色ハドコモカモヒラニイナバ イキウツ多里トイキワトラヌ里トノ

ウツクタノカイノ

左系元方

かきこもりしをれはむとをりて吹来る風ハ花のよどき
○花ノ立ッテアル春ノコロノ山ハ遠ウ見エルケレカクベツ遠ウモナイカ
シテ吹テ来風ハ花ノ白ガスル けりれを法統とのふらそしかり
うつろををてまの みつね
花をそそりあきあざうつりきる色おはいでどしとをりてあき

○ウツロウタ花ヲ見バア、ヲヤト思ウ心ガ花ニミコニデヨチク心ヲガサ
花ノ色ニウツクワイ けやウニ花ノ色ニウツク心ヲドウゲ執イロニカス
てイ人が知ラウモシヌホドニ人が知テハアメリアウラナイチヤ

おはよあし竹村まゝ

新三ノ辰

よみ人しらすを

うづひをねあけゆづいふきとてんごうろふゆふ風をふきか

○草ノナク野へ集テ見レバドコヤモくウツロウタ花ヲ風ガ吹テキラスワ

イ草ガ惜ガツテナクムタウリヤ ふれまの夕のおくあつて何ハ下の夕へあて
らぬし。事をなれハハからざんし

吹風をたふさてうしなまうづひすはつれやハ花ふゆふゆふ

○草ガオレガチカクム集テ恨メシサウニ鳴クガソチハ花ノ色ガ惜ウテ恨ミルナラ
ア吹テクル風ヲ眼ニテチケサオレガア花ニチツトナリ手ドモフレタナラコソ
オレラ眼ミヤウケレオレハ手モフハヒメゾヨスレヤチガ知クテハナイワサテ

典侍治子新三

ちりゝるのちりゝるゝとあゝ物あゝばりてはききにおとゝしゆ。やを

○夜テユク花が惜ニテ泣^{ナカ}テチラスニトマル物ナラコチモ号ニオトロウカイ

号ニオトラヌホド泣^{ナカ}ウケド ナゴ泣テモ花ハドウモトマラヌワイノ

仁和の中將乃みやまん形はあふあ合せむして志

りゝる泣ふゝみきゝ 夜ゝ後彦

苑乃ちりゝるゝやまびゝきまゝ庭ゝのこの心はゝひまのを

○庭ノタツテアルアル立田ニ号ノナク声ガスルガ 花をん^ナツガツラウズ

ハレテアルヤウニ鳴クカイ

うぐひまのねとよあゝ そまん

あづゝとのおのぐね^ナゝちりゝるをゝあふあ合せむしてゝ

○号ガアルヤウニ花ノ枝ヲアキラスコチラス コツクハバ自今ヲ^ナアチクノ風テ花

ハチルモノヲ ソレヲ誰^ナガ咎^ナニシテアルヤウニ恨^ナニキリニ^ナコトヤラ 外^ナノ

物がチラスカナゾクヤウニア 。千枝云、うぐひまのねのまきこゝるれハキリニ

とりのうぐひまハ必あきりうぐひまくとりハ舞あゝ
とらんまてけれ多ゝるまゝくてもあゝ

号^ニ花のあまになくとあゝ みつ

あゝ^ニあまををとなくうぬうぐひまをけあゝのこちゝむねらあゝ

○号^ニノ^ニウ^ニモ^ニイ^ニ鳴^キゴトカナ 今年バカリチル花デナイ イツ年トテ

モツヒニ号^ニノチクテ花ガチラスニアツタト云ハナイニ

あゝ^ニらん ちみくあゝ

ちりゝるゝちりゝるゝちりゝるゝちりゝるゝちりゝるゝちりゝるゝちりゝるゝ

さしきり

はしゆよ

あづさ弓をぬれぬがはらえらればさもほろとあざむきぞをさる

○一春ノコロ山ヲ弼テクレバ ドウモ道モヨケラレヌホド 花ガチツテ

クルワイ アノ女等ガサ

寛正御時きささのまけち合のこ

まのせにまうまはるむいあぬをさるふさばさどひぬ

○二春ノ世テ若菜ヲツウトマテ来タモノヲ アキラコチスチリガウ花

テロカチツム取ユク道ハニギテフニヨウテソデモナイ取キタワイコレヤ

ふちふちうでくわきあつたよめ

うゝ人のいゝくび何ぞあつたのよ。いゝまゝにさしきり

をどりしそまのふふ福しむおは後けうちあも花ぞちりき

○三春花ノチル時今ニ山ニトウテ 露夕夜ハソノ花ヲ惜イノト思フユカ

夏ノウチニモサ花ノチルツツカリヲ見ルワイ

寛正御時きささのまのあ合のあ

吹風しそはあどいなるりをばみ山がらと乃むををんや

○フキチラス風ト 流レテユク谷川ノ水トガナイモノナラバ 三山ノオクニタテ

咲テアル花ヲバヌヤウモノカイ スラハスイニスレヤ風ヤ川ノ水モ 花夕

メニメツタニワライバカリデモナイモノチヤ

志加えしりわりのききさるどこの花ウーい

花のた乃もゆふまらしてわりのゆふよみ

くわり字跡

傍正通昭

よきふんてかへつむ人よぬらの花をひきまつもれよ枝はささるも

○チヨツト立ヨツクバカリテ足モぬメスニヨソニえテイヌル人ニハヒツウテイ

ナスナ友ノ花ヨ タトヒ枝ハ折レルトモ ドウゾハヒツウテイトヨ

もゆり、藤の糸はきりきりぬ人乃もらうとありて

えりうをよきく みつね

かゆかふゆきふらねをまうりきねてふの人のるるむ

○コチノをニ咲テアル友ノ花ヲ アノヤウニ人がヒツカヘンシテドウモん

ステ、イナレヤウニヒタスラエルが ドウユツヤラ エイをテモナイニ

野一らげ よき人さつらび

いすとかもけきさやうくむもらづあの小崎のさね乃山吹のむ

○夕チバナ小島ノ崎ノ山吹ノ花ハケフコノゴロカナヌサニサイタテアラウ

初白とハニつととふやとめ梓あて今うへ今もとりあはげん

をゆきさきあゝるるをもけうねくふあさへあつらひ山ゆきねを

○此山吹ノ花ワイ 春雨ニヌレテ一入一サツタ色モドウモイヌニ 色バカリテ

ナレニ 香マデガ 雨ニヌレテハ別シテシホラレウニホウ

まきあまの方へもかきまう。おのふりひも。あめれをまきまき。おん。

山吹ハワケヤねきさねを花をむとくあはむ君がこころひあはくふ

○山吹ハワケノタヌ物チヤコニナナラサカヌガヨイ 花カ咲タラニニ葉ウト

名ラテ極テオカニヤツタデアラウニ せいほうガコヨヒニエモセヌニ咲テモ何ノ

セシモナイコチヤ 嘆グラ井ナラ さま方が見ニエルヤウニシテクレヤソレ
テハ嘆タカヒガツテワケノタウト云モチヤニ 息のあなり

よりの川乃ほとりふ山ふきし 嘆つときろばよ
はらゆき

吉野にきく けやろゆま 吹風ふ 庭の新きくうらひかり

○吉野川ノ岸ナ山吹ラスレバ 風ガ吹テチルガ ソノ風デ川ノ水ガ
ウゴクニヨツテ 底ヘウツタ 彩マデガチツタワイ

野ーらば よそくーらば

かぢがく 弁もれ 山吹らふ 花の 望ふ 望ま 望ま

○一 け井手ノ山吹ガハヤモウ 花テニウワイ ア、残念ナコトヲシタ

ソソト早ウ 花ノサカリノ時ニ 色ヲヤウテスヤウデアウタモノ

はらハハ 人のいも ちづのきよ しがらみ

まのこころ せい

あふちの山へ ちびとて ことといふ 旅 藤 一 日

○ソソテウソコヘイクトニテ 定ニツタ 旅テハ ヨソニルノハウイ物ヂヤガ
サウイフ 定ニツタ 旅テニニ 心ノアヲドウシ 春ノ山ヘツタ 藤 一 日
クルニテアソニテ イキガリニトツテニ タイモノヂヤ ソレデハオモシロイ 旅 藤
デアラウ 打は下白のきとをーか

まのこころ せい

あづさろろろ ちづのきよ しがらみ

ケフ二日ナラテハ春ハナイト存スルニサ

法鏡下白のまをゆき

亭子院のまをゆき

みはら

ふのまをゆき

○春ヲモウ今日ガリギヤトハ虫ハ又時テサへ花ノトハ立テイルノガ

何トモナイカサアトテサハ花ノトハ立サリトモナイニ

春ガヤモノ

まをゆき

